

評価対象事業		評価者	歴史まちづくり推進担当担当課長 鈴木 庸一郎	
歴史-01	世界遺産条約登録事業	☒ 自治事務	主管課	歴史まちづくり推進担当
		☐ 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	0-(4) 歴史的遺産と共生するまちづくり	施策の方針	0-(4) 歴史的遺産と共生するまちづくり

1 事業の目的

対象	鎌倉の歴史的遺産
意図	鎌倉の歴史的遺産を世界遺産一覧表へ掲載するため。
効果	鎌倉の歴史的遺産を確実に後世に伝えとともに、古都としての風格を保った鎌倉らしいまちづくりに資する。

2 令和5年(2023年)度を実施した事業の概要

・世界遺産登録に結びつく新たなコンセプトの構築を目指し、近年の登録の動向等について、専門家への意見聴取や文献等を用いた調査・研究を実施した。	
・文化財保護及び「鎌倉」の世界遺産登録に係る普及啓発のため、神奈川県教育委員会との共催で文化財保護ポスター事業を実施した。	

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和5年度		令和6年度	達成度
				指標(実績値/目標値)		指標(目標値)	
				事業費(決算/当初)(千円)		予算額(千円)	
01	世界遺産登録調査研究事業	世界遺産登録に結びつく新たなコンセプトの構築に向けた調査・研究		- / -	-	-	
				10 / 30		45	
02	世界遺産登録啓発事業	神奈川県教育委員会主催の文化財保護ポスター事業の共催、X(旧Twitter)による啓発活動		- / -	-	-	
				137 / 142		184	
03	一般事務経費	事務の執行に必要な消耗品等の経費		- / -	-	-	
				31 / 35		40	
		財源内訳	国県支出金	0 / 0	0	0	
			地方債	0 / 0	0	0	
			その他特定財源	0 / 0	0	0	
			一般財源	178 / 207	269	269	
		事業費の合計(千円)		178 / 207	269	269	
		人件費(千円)			4,478	4,478	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	
会計年度任用職員	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	世界遺産登録調査研究事業	調査研究の最終的な到達点は世界遺産への登録であり、数値等の指標によって達成度を測ることが難しいため、指標を設定していない。	世界遺産登録及び登録に向けての調査研究は、鎌倉特有の文化遺産の価値を明らかにし、保護していくことにつながるものであり、歴史的遺産と共生するまちづくりに資するものである。	世界遺産登録に結びつく新たなコンセプトの構築に向けた検討を進めているが、登録に必要な「顕著な普遍的価値」を証明する新たなコンセプトの構築には至っていない。
02	世界遺産登録啓発事業	世界遺産に結びつく新たなコンセプトの構築に至っていないため、市民の意識や理解等を測る指標の設定が困難である。	世界遺産登録に向けて鎌倉特有の文化遺産の魅力を広く発信していくことは、これらの保護につながり、歴史的遺産と共生するまちづくりに資するものである。	世界遺産登録の意義、鎌倉特有の文化遺産の魅力を効果的に発信していくため、啓発事業の手法、進め方の検討が必要である。
03	一般事務経費	—	—	—

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか		1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか		3 外部化ができる事業はない
	関連・類似する事業の統合はできないか		3 統合できる事業はない
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか		1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか		3 民間によるサービスで代替できる事業はない
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか		1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入	△-3 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施	△-1 今後、市民等との協働による事業を検討すべき事業がある
			協働実施済の場合のパートナー

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	☐ 拡充	☐ 改善・変更	☒ 現状維持	☐ 縮小	☐ 休止・廃止
・世界遺産登録に結びつく新たなコンセプトの構築に向け、市内にある文化財の調査を教育委員会と協力して進めるとともに、世界遺産登録に係る情報の収集のため、専門家の意見を聴取するなど、引き続き調査・研究を行い、中長期的な目標として世界遺産への登録を目指す。 ・世界遺産登録に関する市民等の理解の向上及び機運の醸成を図るため、引き続き県内の中学生を対象として実施する「文化財保護ポスター事業」を実施するほか、SNS等で市内の構成資産候補となりうる文化遺産等の情報を継続的に発信していく。					

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)							単位
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	目標値						
	実績値						
	達成率						

指標(単位)							単位
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	目標値						
	実績値						
	達成率						

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	世界遺産暫定一覧表記載の文化遺産の状況							
団体名	古都鎌倉の寺院・神社ほか	彦根城	飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群	長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連資産	北海道・北東北の縄文遺跡群	金を中心とする佐渡鉱山の遺産群	百舌鳥・古市古墳群	平泉—仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群—(拡張)
他市実績				H30登録	R3登録	R6登録	R1登録	

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	世界遺産への登録は、日本国が暫定一覧表に候補物件を記載し、世界遺産委員会への推薦を原則1年に1件ずつ行っている。暫定一覧表に記載されている他の候補物件の登録に向けた活動や、本市の事業を取り巻く環境を把握していく必要がある。
----------------------	---